

令和7年6月23日

町民のみなさまへ

草津町長 黒岩 信 忠

報道や町の広報によりご存じかと思いますが、令和6年度末で400万人の入込み客数を達成いたしました。行政のまちづくりに合わせ、議会、観光協会、旅館組合(女将会、青年部)、商工会(青年部、女性部)の皆さま、そして町民の皆さまが同じ方向を見て取り組んだ成果だと思います。

第一、【草津町の入込み推移】

- ① 黒岩が町長に就任した平成22年度の入込みは265万人でしたが、目標としたバブル期302万人を6年後に、350万人を8年後に到達しました。コロナ禍で一旦200万人を切りましたが、令和6年度で一気に400万人の大台にのりました。
- ② この流れからすると、新たな目標として500万人の数字が浮かぶでしょうが、黒岩町政の考えは単に入込みだけを増やすのではなく、質の高い街づくりを進め、何かあっても乗り越えられる足腰の強い草津町をつくりあげることが必要と思っています。
- ③ 水道、下水、温泉、ゴミ処理、また道路、駐車場の混雑、さらに人手不足等を鑑みて、受け入れ可能なキャパシティを考えるとときだと思っています。今後は緩やかな成長をしていくことが望ましいと思っています。
- ④ 既に、大手外資による二つのホテル建設が進んでいます。また上信自動車道の延伸により交通アクセスの弱点が徐々に改善され、草津温泉を取り巻く環境が大きく変わってきました。そこに草津人気が高まり新たなホテル建設計画が複数あります。
- ⑤ これは既存宿泊施設との競合問題が出てくると憂慮しており、外資による新たなホテル建設は決してウエルカムではありません。しかし法律論では申請を拒否することができないのです。「行政手続き法」、「行政不服審査法」の問題が出てきます。
- ⑥ 建物の許可は「都市計画法」、「建築基準法」等によるもので町の権限ではありません。前に広報した景観法で「形態意匠」の指導をすることはできますが、6階以下ならどこにでも建設が可能になるのです。自ずと町行政の権能は限られ、対応に苦慮しております。
- ⑦ このように舵取りの難しい草津町ですが、令和6年度の入込みはバブル期対比で、133%の大幅増になり、他の大型温泉地にはない伸び率です。ここまでは喜ばしいことだと思います。
- ⑧ お客様で毎日賑わっている景色が当たり前になっていますが、16年前の草津温泉を思い出して下さい。閑散としてお客様が少なく閉塞感が漂い各事業所の経営も非常に厳しい状況だったと思います。順調な今だからこそ当時を忘れてはならないと思います。
- ⑨ 他の観光地が羨むほど順調な草津温泉ですが、それが故、町長として不安を抱いております。これは私の危機管理からくる本能なのかも知れません。もし新たなウイルスの蔓延や大地震などの災害が発生した場合、また地政学的に政情不安になった場合など、観光地は

一番ダメージ受けることになります。歴史を振り返れば分かることです。有事の際にも乗り越えられる盤石なまちづくりをさらに進めるべきだと思います。

第二、【まちづくりのコンセプト】

- ① まちづくりは、就任と同時に進めてきた主要事業ですが、劇的に変わったのは若い女性で溢れかえる草津温泉になったことです。これは偶然ではなく「若い女性にターゲットをあてる」と宣言して進めてきた事業です。
- ② 若者に受けるまちづくりの発想は、黒岩が東京で行っているビジネスにあります。私は東京の原宿竹下通り面でテナントビル業をしており、2003年「nobutada 原宿03ビル」、2009年「nobutada 原宿09ビル」を開業しましたが、この原宿でのビジネスを草津のまちづくりに「感性」として取り入れてきました。
- ③ 原宿のビジネスは自己資金があったわけではなく、黒岩にとって非常に大きな挑戦でした。事業資金は95%を銀行からの融資でしたが、銀行はこのようなビジネスが東京で成り立つのかと心配しておりました。事業の確実性を示すため15年間の予想試算表（PL、BS、キャッシュフロー、税）を独自表で作り、5年間東京に通い得た市場調査での有効性と確かな数値を示したことで理解を得られました。
- ④ 銀行は税金の計算まで入れた事業計画書を見たことがないとして、黒岩の挑戦に託してくれたのです。今は投資した金額の4倍まで資産価値が上がり、負債実質ゼロ、経常利益1億円を出せる会社に成長しました。
- ⑤ 東京は超近代的でおしゃれで華やか楽しい街です。特に、原宿はファッションの聖地、若者の街として活気に満ちています。竹下通りだけで1日10万人が訪れると言われております。レベルの違う東京と同じ物を作ってもお客様は感動しない。ならどうするかと考えたとき、東京の真似をしない、どこにもない景色をつくと結論づけました。「まちづくりは景色づくり」の理念です。
- ⑥ 歴史を江戸から明治までもどし、大正、昭和、平成と変遷する「歴史の物語りを感じるクラシックな街」にすると判断をしました。
- ⑦ 東京は「超近代的でおしゃれ、華やか、楽しい街」 草津温泉は真逆で「クラシックでおしゃれ、華やか、楽しい街」 東京と共通するのが『おしゃれ、華やか、楽しい街』です。この感性を取り入れたのが草津のまちづくりです。
- ⑧ 一昨年、駐日ドイツ大使が草津町を訪れ会食しましたが、「町長、草津は東京の原宿にいろようだ」とコメントしてくれました。ドイツ人の目線からも若者で溢れかえる街に驚かれておりました。光栄に思います。
- ⑨ また、昨年、イギリス人のデイビット・アトキンソンさんと天狗山頂のクリスタル天で懇談しましたが、同氏は、オックスフォード大学卒、米ゴールドマンサックスのアナリストを務め、日本政府観光局（JNTO）の特別顧問を務めた人物です。草津のまちづくりを高く評価してくれました。また町長黒岩に対し、久々に私と同じ考え方の人に会えて嬉しいとまで言ってくれました。本白根山の噴火によりスキー場の半分を失い、天狗山に集中投資を行っていますが、インバウンドにも対応できる近代的かつ斬新なスキー場に変貌させます（湯畑とは真逆なコンセプト）。

- ⑩ 同氏が言うインバウンド戦略は、インターネットが最も有効だと力説しておりました。今やネットで様々な情報を得ることができるが、訪日客にすると懐疑的な情報もある中、一番信用されるのが自治体のホームページだそうです。草津町はリアルタイムの情報を発信すべきだとアドバイスをいただきました。

第三、【草津町の評価について】

- ① 外からみた「草津のまちづくり」は非常に評価が高くなっています。これを裏付けるように、町長黒岩に対し講演の依頼が数多くあります。今まで100回近く行ってきて、多い日は1日4回ありました。
- ② 講演依頼者として、教授同席で早稲田大学2回、國學院大学複数回、横浜大学等です。東京科学大学（前東京工業大学）の講演では、キャンパスで学長が出迎えてくれましたが、聴講者は学生ではなく教授、准教授、講師の方々でした。「火山防災と観光、まちづくり」のテーマで行いました。
- ③ 市町村関係では、千代田町職員（町長同席）に、加賀市長の要請により山代温泉で行いました。他に、愛知県田原市議会、茨城県市長会、北海道岩内町、登別市議会、山形県町村会、全旅連女性経営者の会などがあります。
- ④ だいぶ前ですが、観光経済新聞・積田社長の要請により熊本県人吉温泉に出向き講演を行いました。積田社長、草津の女将会も同伴でしたが、道中・熊本県の蒲島知事が私に会いたいとのことで、知事室で懇談をしてまいりました。
- ⑤ 国県関係では、関東運輸局長の要請により成田空港の活性化に関するシンポジウムで講演を行いました。そうそうたるメンバーの会場でした。また今年の2月、長野原警察署長の依頼により、署に於いて警察官の方々に講演を行いました。
- ⑥ 変わったところでは、経営コンサルティングの船井総研（東証1部上場）の依頼により、リモートで各地のホテル経営者に講演を行いました（これが加賀市長からの依頼につながる）。参加者は高い受講料を払っていたようですが、特別講師である草津町長の講演料は0円です。
- ⑦ 私は、数多くの講演をしてきましたが、一度たりとも講演料をもらったことはありません。草津町長の公務として「まちづくりとその効果」、合わせて草津温泉をPRする講演活動をおこなってまいりました。
- ⑧ 誰もが黒岩に講演依頼するとき、ネットに載っている私のプロフィールを見ていると思います。学歴、経歴を承知した上での講演依頼だと思います。改めて政治家の責務として学歴、経歴を公表いたします。
- ⑨ 草津町長黒岩信忠の学歴は草津中学校卒です。中学を出た後、県立伊勢崎職業訓練校電気機器修理工科に進みましたが、学校教育法第1条の学歴にはなりません。在校中、電気工事士の資格を取り18歳の時、長男と「草津電業」を立ち上げ代表者となり社会人のスタートをきりました。
- ⑩ また1年ほど遅れて三男と黒岩商店を創業（黒岩は四男）。後に黒岩プロパン店と改名、現在は黒岩商事（株）として営業しております。2001年、株式会社「信忠」を立ち上げ、東京でビル賃貸業をスタートさせ、草津湯畑店舗の統合を行い現在に至っております。

社会人になると経済学やビジネスに強い関心を持つようになり、時間があるときはいつも本を読んでいました。また35歳のとき草津町議会議員に立候補して以来、法律に興味を持ち独学ですが勉強をしてきました。

- ⑫ 法律は一種のミステリー小説との想いがあり、のめり込む面白さがあります。62歳で町長になった今でも勉強を続けています。
- ⑬ 昔の町長は象徴、名誉職と言われていましたが、今は最前線に立つプレイヤーです。町の盛衰、町民の皆様の生活など、町長によって大きく変わります。勉強で積み重ねてきた経済論と法律論、さらに学校では教えてくれない行政運営の手法など、トップとして研鑽をしまいいりました。
- ⑭ 行政は一時も止まることはできません。日々が決断の連続です。私は多くの人と意見を交わして、ときには弁護士や知識人に聞くこともあります。また特別職、職員と企画から実行まで綿密な打ち合わせをしますが、最後は責任をもって町長が判断しなければなりません。いつも「全ての責任は町長にある。」その覚悟を持ち自らの知識知恵、経験により、リアルタイムで判断をしてきました。
- ⑮ 反面、町長には結果責任があります。2010年町長就任1ヶ月にして「鬼の茶釜」で大学生を大火傷させた事故（システムの欠陥、町長は不知だが自ら減俸処分）。2011年東日本大震災。2018年本白根山の噴火災害。2020より3年間新型コロナの蔓延。2022年万代鉱源泉湧出量半減など、非常に厳しい逆風の16年間でした。
- ⑯ だからといって社会環境のせいに出るかと言えば、答えはNOです。言い訳で物事は解決しません。どんな環境であっても結果をださなければ町長職は失格です。それが草津町長の政治責任と肝に命じて仕事をしてきました。
- ⑰ 就任当時、町財政は58億円もの借金を抱え、預金は28億円という厳しい状況にありましたが、これを10年で借金を半減させ、基金など預金は現時点で92億円（3.2倍）まで増加させました。
- ⑱ 一方で、これまでに観光、福祉、教育、生活支援等の町長施策として投じた経費は274億円以上になります。投資をしながら同時に劇的な財政改革をしてきました。
- ⑲ 今後、福祉、教育、生活支援等について改めて広報したいと思います。

第四、【今後のまちづくりについて】

- ① 滝下地区の整備を計画しています。湯畑から大滝乃湯までの間を情緒のある通りにする予定です。シンボルとして「煮川の湯」をおしゃれな建物に建て替えます。また地蔵広場から大滝乃湯の間の整備も予定しています。
- ② さらに、元群大草津分院跡地に駐車場を設置して、そこから大滝乃湯までの整備を行い、中和した湯川を観光資源として見せる取り組みをしたいと思っています。詳細は『いでゆ』で広報いたします。
- ③ まちづくりのスタートは湯畑再整備事業でした。以降、西之河原公園再整備、裏草津地蔵整備、立体交差と連動した温泉門と駐車場及び中央通りの整備、天狗山スキー場再整備事業と進めてきましたが、唯一残ったのが東側方面の街づくりです。熱帯圏へのアクセス等、馬場、昭和区方面が未整備であり、町の指針を示しておきたいと思います。